

# 地理的な見方・考え方を働かせた選択・判断する力を育む

## 中学校社会科授業実践

— 単元「世界の諸地域」アフリカ州での実践を通して —

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 中等教科教育分野 小山拓真

### 1. 問題の所在と研究の目的

グローバル化や国際化が進展し、地球的課題が全世界に共有された昨今の社会情勢においては、自国のみならずグローバルな動向も捉え課題解決に貢献する力が求められている。そのような複雑な社会情勢に対応するためにも、我が国の社会科教育で目指されている、公民としての資質・能力の育成は日々、重要性が高まっている。昨今の社会情勢を踏まえ、本研究で定める公民としての資質・能力を「地球規模の諸課題や地域課題の解決に向けた望ましい社会のあり方を、根拠をもって選択・判断する力」とし、本研究ではその目的を達成するために、対象単元を地球規模の諸課題を直接的に学習することができる地理的分野とする。そして、この資質・能力を育むためには、地理的な見方・考え方による社会認識と、それらを生かした選択・判断する力を育成することが必要である。

以上を踏まえ、本研究では、選択・判断する力を育成するための地理的な見方・考え方を働かせる単元モデルの開発・実践・評価を通して、成果と課題を提言することを目的とする。そして、本研究で目指す生徒像は、「地理的な見方・考え方を働かせながら社会の課題を捉え、課題解決のための望ましい社会の在り方を、根拠を持って選択・判断できる生徒」とする。

### 2. 研究の方法

本研究では、「公民としての資質・能力」と「地理的な見方・考え方」に関する先行研究の整理、そして、先行研究で示された以下の

単元構成原理を踏まえた単元開発と実践・評価を主な研究方法とする。

### 3. 単元構成原理

#### (1) 公民としての資質・能力

2017年版中学校学習指導要領社会編(以下、現行学習指導要領)では、社会科の目標として、「公民としての資質・能力の基礎を養うこと」(文部科学省 2017)が掲げられている。「公民としての資質・能力」は、2008年版学習指導要領では、「公民的資質」という文言で表されており、現行学習指導要領に「公民的資質」として説明してきた態度や能力は、今後も「公民としての資質・能力」に引き継がれるものである」と解説されている。このことから、「公民的資質」の育成が今もなお社会科の目標であると言えるだろう。

2008年版学習指導要領では、「公民的資質」を「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者、すなわち市民・国民として行動する上で必要とされる資質」(文部科学省 2008)と説明している。これは、民主主義社会の有力な担い手とされる「市民」という要素だけでなく、国際社会に生きる国家の形成者としての「国民」としての要素も重視されていることが見てとれる。そのような「公民的資質」にはさまざまなものがあるが、例えば、「知識や思考力等を基盤として社会のあり方や人間としての生き方について選択・判断する力」や「自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力」、「持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を

解決しようとする態度」などが挙げられる。これらから、本研究で目指す公民としての資質・能力を昨今の社会情勢を踏まえ「地球規模の諸課題や地域課題の解決に向けた望ましい社会のあり方を、根拠をもって選択・判断する力」とする。そして、このような「公民としての資質・能力」を育成するためには、「社会的な見方・考え方」を働かせることによる社会認識が必要になってくるだろう。

## (2) 社会的な見方・考え方

現行学習指導要領において、各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、「見方・考え方」という概念が挙げられている。「見方・考え方」とは、各教科と社会を繋ぐものであり、深い学びの鍵にもなる重要な概念である。そのような「見方・考え方」は、社会科においては「社会的な見方・考え方」と示されている。社会科の目標にも、前述した「公民としての資質・能力」を養うためには、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して」という文言があることから、「公民としての資質・能力」と「社会的な見方・考え方」は互いに関連し合っていることが読み取れるだろう。

社会的な見方・考え方は、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想する際に必要となる視点や方法のことである。」と現行学習指導要領に示されている。例えば、南北問題（経済格差）という社会課題を考える際には、自然環境や歴史的な背景、他国との関わりなどの視点が必要不可欠である。このように、社会の課題について考察したり、解決に向けて構想したりする際に必要となる視点や考え方のことを「社会的な見方・考え方」というのである。そして、社会への関わり方を選択・判断するためには、社会的な見方・考え方を働かせることが必要不可欠であるとも言える。

社会的な見方・考え方は、「地理的な見方・考え方」「歴史的な見方・考え方」「現代社会

の見方・考え方」と三つに分類できる。本研究で、対象とする「地理的な見方・考え方」とは、2008年版学習指導要領で、「地理的な見方の基本」「地理的な考え方の基本」として解説されている。「地理的な見方の基本」とは、位置や分布、場所、傾向性、共通性などの社会的事象を地理的に認識していくことを指す。対して、「地理的な考え方の基本」とは、「地理的な見方の基本」で認識した社会的事象の背景・要因を、その地域の全体的な傾向性や自然環境、他地域とのつながりなどを人間の営みと関連づけることで考察していくことである。

坂田・黒河（2020）では、地理学研究5つの中心的概念を地理的な見方・考え方に分類している。それぞれ、場所、位置・分布を見方に、地域、空間的相互依存作用、人間と自然との相互依存関係を考え方に分類している。本研究においても、坂本・黒河（2020）の分類を踏まえていきたい。それでは、このような地理的な見方・考え方と公民としての資質・能力育成との関係性はどのようになっているのだろうか。

## (3) 見方・考え方と公民としての資質・能力育成との関係性

吉田（2001）では、地理的な見方・考え方の構成要素として「地理的見方」「地理的考え方」に分解でき、そこに「地理的判断力」という概念を投入することで、公民としての資質・能力育成との関連が図れることが提唱されている。「地理的判断力」とは、地理的な見方・考え方に支えられた選択・判断する力の総称のことであり、「価値判断」「問題解決」「意思決定」に分かれている。すなわち、地理的な見方・考え方を働かせてより間違いが少ないように社会を認識し、それを踏まえて社会への関わり方やより良い社会のあり方を選択・判断する力を養うことが公民としての資質・能力育成につながるということである。

## (4) 本研究で定める「選択・判断する力」

現行学習指導要領では、「選択・判断する力」

を「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて学習したことを基に、複数の立場や意見を踏まえて、自分の意見や考えをまとめることができる力」と定義している。確かに、より間違いの少ない社会認識による社会の課題を把握すること、多面的・多角的な考察に向けた多様な立場の意見を受容すること、そして権威や声の大きな存在に引っ張られるのではなく自分で判断し意見をまとめることは、より良い社会の形成者として必要な能力である。さらに、桑原（2006）は、ある社会問題の当事者としての判断と、現実の社会から距離を置き第三者として客観的に行う判断とでは、社会科では後者をより重視する必要性について述べている。社会科は、子どもたちが経験し得ない社会に対して、科学的なアプローチによって社会認識に到達することを目指す教科でもある。したがって、社会科の授業を受ける子どもが当事者にならずに、第三者的な視点で客観的に社会を判断することができる力の育成は、社会科において今後も求められるであろう。

以上を踏まえ、本研究で定める「選択・判断する力」を、「客観的な視点（見方・考え方）に基づき、根拠を持って自分の考えを合理的まとめることができる力」と定義する。

#### 4. 中学校社会科地理的分野世界の諸地域「アフリカ州」の単元開発

##### (1) 単元の全体像

本研究では、アフリカ州を題材としたモデル単元の開発を行なった。アフリカ州を題材に設定した理由は以下のとおりである。

- ①「アフリカ」という題材が持つ特質  
物理的に距離が遠い地域であるが、モノカルチャー経済による人々の貧困など、我が国（先進国）と関わりのある地球的課題が見られる。
- ②先行研究・実践の蓄積  
地理的な見方・考え方と資質・能力の育成をテーマとしたアフリカ州での先行研究・実践の少なさ。
- ③生徒のアフリカ州へのイメージ

生徒がアフリカ州についてネガティブなイメージを持っている可能性を吟味し、より間違いの少ない社会認識の重要性について気付かせることができると考えたため。

現行学習指導要領によると、「世界の諸地域」で重視する見方・考え方として、「地域」、「空間的相互依存作用」の2つが挙げられている。「地域」とは、地域的特色を他の地域にも共通する「一般的共通性」と、当該地域固有の特色である「地方的特殊性」の二つの観点から地域を捉えていくことである。「空間的相互依存作用」とは、地域内や地域外との関わりやそこで生じる相互への影響という観点から地域を捉えていくということである。

「地域」、「空間的相互依存作用」という見方・考え方をアフリカ州の単元に当てはめると、「地域」においては地方的特殊性としてのアフリカ州の自然環境や歴史、生活・文化が、「空間的相互依存作用」においては、モノカルチャー経済を始めとした先進国との関わりが挙げられると考える。これらを踏まえ、表1のような単元を開発した。

表1.単元指導計画

時数	授業内容及び学習課題
第1時	【内容】課題の設定と予想 【学習課題】 MQ「アフリカ諸国が貧困から抜け出すために、今後重点的に取り組むべきことは何か」 SQ「なぜ、アフリカ諸国の多くが貧困から抜け出せないのか」
第2時	【内容】アフリカ州の自然環境【学習課題】アフリカ州の自然環境にはどのような特色が見られるか
第3時	【内容】アフリカの歴史と文化【学習課題】アフリカ州の歴史は現在の人々にどのような影響を与えているのか。
第4時	【内容】特定の輸出に頼るアフリカの経済・アフリカのその他の課題 【学習課題】なぜアフリカ諸国は特定の一次産品の生産に依存しているのか
第5時	【内容】アフリカ州のまとめ①【学習課題】SQ「なぜ、アフリカ諸国の多くが貧困から抜け出せないのか」
第6時	【内容】アフリカ州のまとめ② 【学習課題】MQ「アフリカ諸国が貧困から抜け出すために、今後重点的に取り組むべきことは何か」

単元の流れに関して、まず1時間目で単元を貫く問い（以下、「MQ」と称す）である「アフリカ諸国が貧困から抜け出すために、今後重点的に取り組むべきことは何か」、MQを追求するために必要なサブクエッション（以下、SQと称す）である「なぜ、アフリカ諸国の多くが貧困から抜け出せないのか」という課題設定を行い、1回目の予想を行う。2時間目以降は、アフリカ州の自然環境や歴史・文化、モノカルチャー経済の実態やアフリカの発展を見据えた諸外国の支援等を、毎時間にわたり学習していく。そして、その際に、毎時間ごとに働かせた見方・考え方を、生徒に対しては「視点」として提示し、表2の単元共通のワークシートに記述させていく。5時間目においては、SQである「なぜ、アフリカ諸国の多くが貧困から抜け出せないのか」という問いに対し、今までの視点を踏まえてアフリカ諸国の貧困の要因をまとめさせる。そして、6時間目において、「アフリカ諸国が貧困から抜け出すために、今後重点的に取り組むべきことは何か」というMQに立ち戻り、今まで働かせてきた見方・考え方を生かした選択・判断を行わせる場面を設定していくという流れである。

また、上述した単元共通のワークシートに記述する内容に関しては、毎時間の授業の学習課題に即した記述テストの実施とした。記述テストには、本時で学習した見方・考え方を働かせられているのかをみとるため、問いに対して2、3文程度の文章記述をさせていく。例えば、第3時に実施する「アフリカの歴史と文化」においては、「アフリカ州の歴史は現在の人々の生活にどのような影響を与えているのか」という問い（MQ）を通して授業を行い、授業の終末部分で、生徒に「アフリカ州の人々の生活や文化について、アフリカ州の歴史に触れて説明しなさい」という記述テストに答えさせる。この記述テストを用いて、働かせて欲しい見方・考え方を見とっていった。

(2)「選択・判断」場面となる5、6時間目の詳細

5時間目では、これまでの学習を踏まえてSQの追究を行ない、アフリカ諸国の貧困の要因をウェビングマップを用いて構造的にまとめさせた。そして、生徒がまとめた貧困の要因を、「モノカルチャー経済への依存」、「農鉱業の生産性の低さ」、「衛生・安全面の劣悪さ」の大きく3つに分類した。

6時間目では、MQ追求のために、5時間目で整理した貧困の要因を踏まえ、「新たな産業の活性化」、「農鉱業の生産性向上」、「安全・医療の向上」の3つのうち、先進国としてどの分野を今後重点的に支援するかを選択・判断させた。先進国の立場から選択・判断させた理由は、立場を決めた方が考えやすいため、第三者による選択・判断にするため、第三者性は担保しつつも、「私たちの問題でもある」という意識を喚起させ学習への動機付けを図るため、という3点が挙げられる。

6時間目の学習活動として、表3のワークシートを用いて、学習班でそれぞれの支援を行うことのメリット・デメリットを考える、個人で重点的に取り組むべき支援のランク付けを行う、それぞれの立場についての全体共有を行う、最終的な選択・判断として自分の考えをまとめる、という4点を実施した。

加えて、より合理的な考えを述べられる工夫として、ランキングという思考ツールを用いることで選択・判断の基準を重視させること、先進国の立場からの支援（選択・判断）という設定から、その支援を行うことは誰にとつてのメリット・デメリットなのかも具体的に考えさせる、という2点を重視した。

これらを踏まえ、既習事項であるアフリカ州の様々な知識や視点（見方・考え方）を活かした学習を行なった。なお、最終的な選択・判断の評価に関しては、その支援を選択した根拠に、今までの見方・考え方が活用されているのかを主たる評価基準とした。

表 2. 単元共通のワークシート

世界の諸地域 アフリカ州 1枚プリント

年 組 番 氏名 ( )

①なぜ、アフリカ諸国の多くが貧困から抜け出せないのか（予想）

アフリカ諸国が貧困から抜け出すために、どのような支援が必要だろうか

⑥アフリカ諸国が貧困から抜け出すために今後重点的に取り組むべきことは何か  
【取り組むべきこと】  
【理由】

②アフリカ州とはどのような場所なのか、( )に触れて説明しなさい。  
視点1

⑤なぜ、アフリカ諸国の多くが貧困から抜け出せないのか（まとめ）

③アフリカ州の人々の ( ) について、アフリカ州の歴史に触れて説明しなさい。  
視点2

④モノカルチャー経済が人々に与える影響を、アフリカ州の地域的特色や ( ) に触れて説明しなさい。  
視点3

表 3.6 時間目に使用したワークシート

世界の諸地域 アフリカ州 学習プリント⑥

年 組 氏名 ( )

学習課題：アフリカ諸国が貧困から抜け出すために ( ) が今後重点的に取り組むべきことは何か

- ①それぞれの項目のメリット・デメリットをまとめましょう。  
その際、誰（どの立場の人々）にとってのメリット・デメリットなのかを踏まえましょう。

新たな産業の活性化	農漁業の生産性向上	安全・医療の向上
一次産業（農業や漁業）に頼らないよう、新たな産業を興せるような取り組みを今まで以上に行う。	砂漠化解消プロジェクトや農工具の改良など、農漁業の生産性向上に向けた取り組みを今まで以上に行う。	紛争地域への軍事介入による平和維持活動や保健・医療（衛生環境含む）の向上を目指した取り組みを今まで以上に行う。
【メリット】	【メリット】	【メリット】
【デメリット】	【デメリット】	【デメリット】

- ②上記の各項目について、重点的に取り組むべきだと思う順にランク付けをしましょう。  
 そして、それぞれの取り組みについて、その順位にした理由を書きましょう。

1位	理由
2位	理由
3位	理由

- ③グループ学習・全体共有を終えて、再度ランク付けをしましょう。

1位	理由
2位	理由
3位	理由

## 6. 結果・考察

### (1) 選択・判断項目の傾向

生徒60人のワークシートを参考に、得られた結果が図1の通りである。

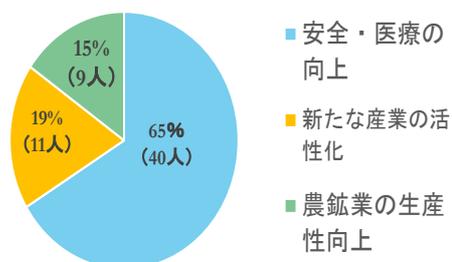


図1. 選択・判断項目の傾向

安全・医療の向上 60% (40人)  
 新たな産業の活性化 19% (11人)  
 農鉱業の生産性向上 15% (9人)

### (2) 成果と考察

本単元を実践してみたての成果は以下の通りである。

①「空間的相互依存作用」や「地域」という地理的な見方・考え方を働かせることは、本研究で目指す選択・判断する力の育成に寄与する。

最終的な選択・判断する場面における生徒の記述から、主として「空間的相互依存作用」に着目しているパターン、主として「地域」に着目しているパターン、その両者に着目できているパターンの合計3つの記述のパターンを確認することができた。以下、3パターンの記述例を示したい。

(ア) 主として「空間的相互依存作用」に着目しているパターン

安全・医療の向上を選択した生徒A

「アフリカで紛争が起こっていると、支援する側も支援に行きにくかったり、支援される側も労働力が下がったりするので、まずは

その場の状況を整えることが重要だと思った。」

(イ) 主として「地域」に着目しているパターン

農鉱業の生産性向上を選択した生徒B

「農業や鉱業はアフリカの人たちの生活を支えているものだと思うので、それを発展させることは、アフリカのたくさんの人たちが行ってくれると考えるから。」

(ウ) 「空間的相互依存作用」「地域」両方に着目しているパターン

新たな産業の活性化を選択した生徒C

「新たな産業を活性化することで、モノカルチャー経済による不安定さが改善される。また、農鉱業への過度な依存が減り砂漠化も解消される。貿易や交流などもしやすくなり、海外にもメリットがある。」

単元「世界の諸地域」における地球的課題の追究においては、その地域の地域的特色（「地域」）や他地域との結びつき（「空間的相互依存作用」）を踏まえることで課題の原因を考察しやすくなる。すなわち、上記の見方・考え方を働かせることでより間違いの少ない社会認識ができるようになり、合理的な選択・判断の材料になったのだと考える。

②意識的に見方・考え方を働かせることができた生徒を確認できた。

各授業で提示した視点である、「自然環境」「生活・文化」「他国との関わり」という3つの視点を用いた記述が見られた。例えば、5時間目におけるアフリカ州の貧困の原因を考察する場面において、以下のような記述（図式含む）を確認することができた。

[自然環境]

→資源が多く採れる…資源の呪いなど

[生活・文化]

→植民地…国境分けられる…民族間の対立

[他国との関わり]

→モノカルチャー経済…天候や国際価格に  
経済が左右…安定した収入×

上記のような記述が見られた理由として、単元を通じて働かせる見方・考え方を「視点」として生徒に提示し、毎時間ワークシートに書き溜めていく工夫を設けたからだ考える。アフリカ州を様々な視点で捉えることができるようになったという点で、社会認識形成上、意義があったと考える。

③他の課題への影響や順序を踏まえた論理的な思考を見とることができた。

最終的な選択・判断場面において、以下の記述を確認することができた。

農鋳業の生産性向上を選択した生徒 D

「アフリカの貧困を解決するためには、まず、アフリカがお金を得ることが重要だと思った。お金が得られ余裕ができてきたら新しい産業に手を出したり、一人一人の安全・医療に気を配れる。また、先進国も自分たちの欲しいものを今までよりも楽に手に入れることができる。双方にメリットが多いことから、農鋳業に力を入れた方がいいと思う。」

上記のような記述が見られた理由として、選択・判断する場面においてランキング形式を用いたことで、その順位にした理由づけを強化することができたからだ考える。自身の価値観や感情に左右されず論理的に課題解決の筋道を描けていることは、本研究で目指す選択・判断する力（「客観的な視点（見方・考え方）に基づき、根拠を持って自分の考えを合理的にまとめることができる力」）の育成において、意義があると考える。

### (3) 課題と考察

①既習が活用されていない選択・判断を行な

っている生徒を確認できた。

例えば、一般論で語れる「命が大切」という理由から選択・判断を行なっていたり、政治面という既習にはない視点から選択・判断を行なっている記述を確認できた。

一方、「命が大切」という一般論で語れる記述や、既習で扱っていない政治面に着目した記述それ自体も、市民育成上は意義があると考える。なぜなら、現実社会での課題解決においては、学校で学んだことだけが反映されるわけではなく、様々な知見を総動員する必要があると考えるからだ。従って、現実社会に開かれた選択・判断を行うことは、公民としての資質・能力の育成を目指す社会科において、必要になるとも考えることができるだろう。

②意見が飛躍していたり、単純化しすぎている記述があった。

例えば、緑化になることで貧困問題が解決されるという飛躍や、緑化さえすれば貧困が解決されるという単純化が生じている記述が見られた。

一方、飛躍や単純化が起きていようが、直感やよく吟味されていない偶発的なアイデアなどによって、結果的に判断が好ましくなるケースも現実社会にはある。飛躍や単純化の何が課題なのかと問われることもあるだろう。しかし、現実社会で生じている社会問題の多くは、要因同士が複雑に絡み合っており、そのような複雑な社会問題の解決においては、社会問題が生じているメカニズムを正しく理解することが求められる。そのため、飛躍や単純化はより間違いの少ない社会認識において好ましくなく、そのような飛躍や単純化による選択・判断には危険が伴うのではないかと考える。

## 7. まとめと今後の課題

本研究では、中学校社会科地理的分野における、地理的な見方・考え方と公民としての資質・能力の関係性に着目し、選択・判断す

る力を育成する単元開発・実践・評価を通して成果と課題を提言した。

今後は、大単元「世界の諸地域」における他の州との関連を踏まえた単元開発、地理的分野で育成した資質・能力の歴史的分野・公民的分野への接続、の2点を検討していきたい。

## 8. 謝辞

本年度も、新型コロナウイルスの流行から実習を行うことが厳しい状況下であったのににもかかわらず、ご厚意により実習を行わせていただきました。

本研究にご協力いただいた連携協力校の先生方、指導教官の先生、そして生徒の皆さんに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

## 7. 参考・引用文献

- ・岡崎誠司・大浦瑞紀(2016)「社会的な見方や考え方を成長させる中学校社会科授業の可能性」『富山大学人間科学研究実践総合センター紀要教育実践研究』第11号,pp.1-13
- ・鎌田公寿(2019)「「公民的資質」の排他性とその克服-ケア論の立場から-」『常葉大学教育学部紀要』第39号,pp.173-184
- ・唐木清志(2016)『「公民的資質」とは何か』東洋館出版社
- ・桑原敏典(2006)「合理的な思想形成を目指した社会科授業構成-シティズンシップ・エデュケーションの目的と社会科の役割の検討を踏まえて-」『社会科研究』第64号,pp.41-50
- ・坂田元丈・黒河明子(2020)「「地理的な見方・考え方」を働かせる中学校社会科学習の単元開発-「ルクセンブルクの国民一人あたりのGDP」からヨーロッパの空間的相互依存作用を捉える-」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要教育実践研究』第15号,pp.1-11
- ・社会認識教育学会(2006)『社会認識教育の構造改革-ニュー・パースペクティブにもとづく授業開発-』明治図書

- ・鈴木大蔵(2019)「「見方・考え方」を働かせた社会科授業とその学習評価-憲法学習の授業開発を通して-」『立命館教職教育研究』第6号,pp.1-10
- ・西岡加名恵・石井英真(2019)『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価「見方・考え方」をどう育てるか』日本標準
- ・藤原敏宏(2006)「価値判断力を育成する中学校社会科地理的分野の授業-政府開発援助の学習を例に-」『社会科教育論叢』第45号,pp.8-13
- ・峯明秀・唐木清志(2020)『子どもと社会をつなげる!「見方・考え方」を鍛える社会科授業デザイン』明治図書
- ・森分孝治(1978)『社会科授業構成の理論と方法』明治図書
- ・文部科学省(2008)『中学校学習指導要領(平成20年告示)解説 社会編』日本文教出版
- ・文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社
- ・山口幸男(2000)「地理教育と公民的資質」日本地理教育学会『新地理』第47号,pp.103-110
- ・吉田剛(2001)「地理的な見方・考え方を育成する社会科地理授業の改善-単元「アメリカ五大湖南岸工業地域」の場合-」『社会科研究』第54号,pp.31-40
- ・渡部竜也・井出口泰典(2020)『社会科授業づくりの理論と方法』明治図書